

### 第3回福井県自転車活用推進計画検討会議 議事録要旨

日 時：令和2年2月6日（木）10：00～12：00

場 所：福井市地域交流プラザ601BC会議室  
（福井市手寄1丁目4-1 A OSSA 6階）

出席者：名簿のとおり

意見等：

○議事（1）福井県自転車活用推進計画（案）について

議事（2）今後の進め方について

事務局より一括して説明（資料1-1、1-2、資料2、資料3）。

主な意見は以下の通り

- ・ 自転車利用環境の現状では、駅の駐輪場についても触れてはどうか。
- ・ 計画の推進によって福井県が目指す姿が施策1～4として記載されているため、施策ではなく目標という表現が適切ではないか。また、現状を受けてどのような取組みを進めていくのかが伝わりやすいように概要版の現状・課題などを記載しては。
- ・ 自転車通行空間における統一的な路面表示の整備手法について計画に記載できないか。直轄国道の道路管理者としては、決めてあればそれに基づいて整備を実施できる。
- ・ モデルルートの登録にあたっては整備等に関する協議会の設置が必要となるが、新たな組織を設置する予定はあるか。
- ・ サイクルツーリズムの推進にかかる指標は、レンタル・シェアサイクルの年間利用者数となっているが、より高いチャレンジ的な目標を掲げてはどうか。しまなみ海道は10万人程度がレンタサイクルを利用している。
- ・ サイクルツーリズムの推進にあたって、どういった見せ方をしていくのかが重要。北陸新幹線開業時の二次交通として自転車を活用することが可能で、例えば小浜線に設置されているレンタサイクルを、嶺南地域の寺社仏閣めぐりに活用できる。

- 他県においてサイクリングを目的とした観光客の数等を指標にしている事例があるため、計画を実施する中で福井県においても同様の数字を把握し、指標への反映などを検討していただきたい。
- モデルルートの一部がえちぜん鉄道に沿う形になっているため、ルートを走行する方がサイクルトレインを利用しやすいようにしていきたい。
- 福井鉄道においても令和2年度からサイクルトレインを実施することを検討している。
- 国体に合わせてサイクルトレインを実施した。乗客の安全確保のリスクを考え本格実施の計画はないが、引き続き検討していきたい。
- 他県においてはバス車両の外部に自転車を積載できる装置を装着している場合もあるが、利用頻度や運転士不足など課題があるため、バス停での自転車とバスの乗り換えなどを検討したい。
- PTA連合会としては、全国で子どもが加害者となる自転車事故が発生していることから、自転車保険を含んだ総合保障制度を任意加入で保護者に案内しているが、小・中学生の加入率は1～2割にとどまっているためPRを図りたい。
- 道路交通法では、ヘルメット着用については保護者に対して子どもに着用させることの努力義務があるが、これを条例により義務化してほしい。高齢者に対して努力義務を促している県もある。福井県の子どもはヘルメットの着用率が低いと感じる。
- ヘルメット着用による死亡リスクの低減など効果を知ってもらうことが重要。計画の実施の中で、どのような方法で着用してもらうか検討してほしい。
- 北陸新幹線開業等により、レンタル・シェアサイクルを利用する観光客が今後増加し、自転車保険の加入を義務化している自治体からの来県者も増加することが予想される。そうした利用者は「貸付事業者側で当然、保険には加入している」という意識がある。レンタル・シェアサイクルの利用者が事故に遭った場合に備え、貸付業者の保険加入をしっかりと進めるべき。
- 福井県は自家用車の世帯保有率が全国1位だが、自動車保険に個人賠償責任特約を付ければ、同居の家族全員の対人対物補償が可能。保険会社によっては、

自転車乗車中に自分が転んでけがをした場合の補償をつけることも可能。そうしたPRも必要では。

- 計画内容が多岐にわたるため、統一的なロゴやフレーズを作って各種活動の中で使用し、計画に沿って活動していることを分かりやすく示してはどうか。
- 自転車事故については、単路部で起こっているのか交差点で起こっているのか、などの分析が必要。
- 計画実施にあたってマスコミに対するリリースの方法を工夫し、施策ごとの成果などを出していくと県民に伝わりやすいと思う。民間からの協力が得られる機会づくりにもなる。積極的な発信を。
- 実施にあたり、より具体的に各事業を5年間でどのように進めていくかのロードマップを作って進捗管理を行っては。
- 計画の修正については事務局一任とする。委員にはパブリックコメントについて周知協力をお願いする。